

潰瘍性大腸炎と Crohn 病の診断基準(案), 治療指針(案)が示されてから, 約20 年が経過した。それ以来同じ概念や基準の下に, 診断や治療成績の討論がなされてきた。

「胃と腸」時代には炎症性腸疾患の特集は2, 3年に1 回程度だったが, 「胃と腸」になってからはその頻度が増し, 最近では年に2 本程度特集が組まれている。患者数の増加と相まって, その診断学は確実に進歩してきた。当時は Crohn 病と腸結核の鑑別が大きな問題であり, 治療的鑑別診断がよくなされた。その後, 診断するわれわれの眼も慣れてきて, 現在では X 線 1 枚でも典型例なら診断可能になってきた。

本特集号では, 炎症性腸疾患の診断を中心にした基本的事項から最近の進歩までをみることができる。最初の診断から長期経過例に至るまで, ま

た軽症から重症まで, 潰瘍性大腸炎と Crohn 病の幅広いバリエーションが理解できると思う。ぜひとも眼に焼き付けていただきたい。また, 鑑別診断に迷うような症例に出会ったら, 本誌をめくってみると, いろいろなヒントが得られるだろう。

炎症性腸疾患では前処置や検査により, 病状の悪化を来すことがある。美しい写真を追求するあまり, 病勢の増悪を引き起こしては本末転倒である。この点にも十分な配慮が必要である。

診断学は著明に進歩したものの, 病因はいまだ不明と言わざるを得ない。しかしながら, 病態の解明に伴って, 新しい治療法や薬剤が開発されてきた。完治まではまだ行かないまでも, 患者の QOL を著しく向上させるような治療法が確立されることを期待する。

胃と腸

3 月号 (第 32 巻・第 4 号) 予 告

発売予定

3 月 25 日

定 価 (本体 2,100 円+税)

主題／大腸腺腫症—最近の知見

序 説	大腸腺腫症—最近の知見……………東大・1 外	武 藤 徹一郎
	大腸腺腫症—最近の知見と臨床……………癌研・内科	小泉 浩一・他
主 題	長期経過からみた大腸病変の取り扱い……………国立がんセンター・放射線診断部	山城 正明・他
	長期経過からみた胃・十二指腸病変の取り扱い……………川崎医大・内科	飯田 三雄・他
主 題 研 究	長期経過からみたデスマイド腫瘍の取り扱い……………浜松医大・2 外	馬場 正三・他
	FAP の外科的治療—予後からみた手術方針……………兵庫医大・2 外	宇都宮譲二・他
主 題 症 例	家族性大腸腺腫症に合併した十二指腸乳頭部病変の局所手術……………東京医歯大・疾患遺伝子実験センター	岩間 毅夫・他
	APC 遺伝子……………国立大阪病院・外科	西庄 勇・他
今月の症例	大腸腺腫症における陥凹型腫瘍……………秋田日赤・胃腸センター	工藤 進英・他
	Vater 乳頭部癌, S 状結腸癌を伴った FAP (Gardner 症候群) の 1 例……………東大・1 外	正木 忠彦・他
リフレッシュ講座	胃・十二指腸多発腺腫および十二指腸乳頭部癌を契機に見えた Gardner 症候群の 1 例……………済生会熊本病院・消化器科	江上 のり子・他
	胃・十二指腸に早期癌を認めた家族性大腸腺腫症の 1 例……………川崎医大・内科	鴨井 隆一・他
	十二指腸乳頭部癌を合併し膵炎を繰り返した Gardner 症候群の 1 例……………癌研・内科	甲斐 俊吉・他
	家族性大腸腺腫症に伴う甲状腺癌の 1 例……………東京医歯大・2 外	吉永 圭吾・他
	狭窄型虚血性大腸炎の 1 手術例……………北里大東病院・内科	小林 清典・他
	〈食道検査・治療の基本③〉食道内視鏡検査の基本……………都立駒込病院・外科	吉 田 操

胃 と 腸 (第 32 巻 第 3 号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5714

FAX (03) 3815-7802

E-mail: itocy@nna.so-net.or.jp

1997 年 2 月 26 日発行 (毎月 25 日発行)

1 部定価 (本体 4,400 円+税) (配送料 124 円)

1997 年年ぎめ予約購読料 29,600 円

(増刊号 4,400 円を含む 13 冊) (送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印 刷 所 永和印刷 (株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 3814-5771

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1997, Printed in Japan.

• 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。

• **R** <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>

• 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は, そのつど事前に日本複写権センター (03-3401-2382) の許諾を得てください。

• 医学書院ホームページ (インターネット) <http://www.so-net.or.jp/medipro/igak/igakjhom.htm>

(担当) 小松原・湯原・榎兼・長谷川